



JR総連福島県協議会 第 30 回定期委員会 報告



2018 年 12 月 22 日、福島市のコラッセ福島において、「JR 総連福島県協議会第 30 回定期委員会」が開催されました。

JR 総連に結集する東労組の福島、郡山、郡山総合車両センター、会津若松、いわきの 5 支部と貨物労組の福島支部から委員傍聴合わせて 30 名が結集し、今年一年の総括議論と来年以降のたたかう方針が確立しました。

今回の委員会では、JR 東労組の組織的な課題を如何にして乗り越え、再加入にむけて取り組んでいくのかが最大の課題となり、発言した委員すべてからこの間の職場からの具体的なたたかひの報告がなされました。貨物労組の若い仲間は「総連の旗の下に結集するために、仕事やレクを通じてきっかけを作り、しっかりと連帯して再加入に向けた取り組みのサポートをしていきたい」との決意も語られました。また、いわきの仲間からは「国鉄改革を担ったこの組織は潰してはならない。意見の一致をはかっていきたい」との発言もなされました。



今回の委員会において、福島支部からは県協議長に安田和広(支部委員長)、副議長に服部誠(支部副委員長)、尾形豊(仙台地本書記長)、事務局次長に野地道夫(支部執行委員)、幹事に阿部孝弘(支部書記長)がそれぞれ就任しました。

JR 総連春闘がまもなく始まります。しっかりと要求を掲げ職場からの運動をつくりだしていこう!

